

# 伝説が息づく 谷の都、鬼無里



鬼の無い里・きなさという地名の由来には、一夜山の鬼にまつわる話 (P8「一夜山」参照) のほかに、鬼女紅葉の伝説があります。その昔、京の都から流されてきた“紅葉”という美しく高貴な女性が、この地に東京、西京、二条、三条などの名をつけて都を偲んでいました。ところが、いつしか兵を集め力づくでも都へ上ろうと考え、戸隠荒倉山の岩屋で、山賊を配下に村々を襲い軍資金を集めていきました。人々は紅葉を鬼女と呼ぶようになり、それを知った京の朝廷は平維茂に討伐を命じ、紅葉は33歳で命を落とします。以来、水無瀬と言われていたこの地は、鬼のいない里「鬼無里」と呼ばれるようになったのです。